

第4回企画委員会 議事録

日 時：令和7年12月23日（火）15:00～17:00

場 所：2号館5階 庁議室

出席者 委員：7名、アドバイザー：1名

■フィールドパビリオン第十次認定について

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

- ・三木市の藍染のプログラムについて、藍染発祥の地は諸説あるので、例えば“発祥の地の一つ”という言い方にするなど、工夫が必要。

事務局

- ・HPの個別ページを作るまでに、プログラム名称をどうするか三木市と検討する。

■万博事業の検証の状況について

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

・万博に向けた子どもたちに向けた事業について、兵庫県民として、一保護者として感じたことは、万博のことを全く知らなかった子どもたちが、万博期間中には、「ひょうご EXPO TERMINAL に行ったよ」という声が出てきて、子どもたちが万博に参画しているとの実感がわいた。

・また、地域でも、「イベントで見たことがある」「名前を知っている」「ロゴマークを見たことがある」といった子どもたちの声も増えてきており、フィールドパビリオンの認知度が高まっていると感じている。

・数字として見えてくるものもありながら、兵庫県の現場でもそういった変化がみられるようになったということが見えた。子どもたちがより兵庫県を知ってもらうようなきっかけとなる取組を進めていくことがよいと感じた。

・更に言うと、子どもたちが、もっと兵庫県をよくするためにはどうしたらしいだろう、といった視点が加わったことが評価できるので、こういった機会を今後も増やしていくべきである。

委員等

・ひょうごの宝探しプロジェクトでは、フィールドパビリオンの宝について子どもたちが自ら取材し、映像に収めるという形をとり、中高生を中心に熱心に取り組まれた。

・映像技術ではなく、子どもたちがどういった視点で制作したかということが重要であり、地域の方に取材して宝をみつけることができたことは、事業としてうまくいったものと評価できる。

・今後、カリキュラムに導入することは難しいと思うが、中高生、大学生を対象に、フィールドワークを通じて地域に関わり、自分の視点で考えて、魅力を発信していくような取組を断続的に実施していくことが重要である。

委員等

・万博の期間中に儲かった、儲かっていないではなく、今回の取組の意味や価値を感じて取組を続ける人がいて、その思いや取組を身近な中学生や高校生が大事にしないといけない。その観点から、フィー

ルドパビリオンの一つの価値として、KPI の来訪者の満足度よりプレイヤーの「取組に自信をもてた」割合が少ないので問題であり、改善するためには、取組の価値を知らしめるような活動が必要になる。
委員等

- ・「取組に自信を持てた」割合が少なかった背景はあるのか。

事務局

・約4割のプレイヤーが初めて観光プログラムにチャレンジしたが、残りの約6割は元々取り組んでいた方であり、これまでの延長としての取組のためあまり変わらないという声もあり、「取組に自信を持てた」割合が少ないので結果になったと考えられる。

委員等

- ・元々同じ取組をしていたプログラムと今回新しく取り組んだプログラムを分けて数字を見てみてもいいのではないか。

委員等

- ・「取組に自信を持てた」割合の67%は決して低い数字ではない。KPIの80%の設定が高いと感じる。

委員等

・ひょうごフィールドパビリオンは令和4年からの事業であるため、当初から取り組んでいるプログラムと最近取り組み出したプログラムでは結果は違うと思う。多くのプログラムがあり、分類ごとに整理できれば、それぞれの課題に対して対策が立てやすい。

委員等

- ・今後の事業展開を検討する上では、それぞれのプレイヤーの特性に応じたニーズに対応していく取組をしていかなければならない。

委員等

- ・プレイヤーの意欲を後押し、自信に繋げる取組の推進とするなど、あくまで主体は県民にある。
- ・収益化が1つのターゲットになるプログラムもあるとは思うが、それ以外のプログラムもあるので、持続性の確保といった表現がよい。
- ・プレミア・プログラムは、内容について納得感があるプログラムを認定するのがよい。
- ・県の体制が分野を超えて展開できたことは、画期的なことなので、記載を充実させるべきである。
- ・全ての施策はつながっているので、相対的な見方が重要。それぞれにどういう意味があったのか、相対関係を並べてみればよいだろう。

委員等

- ・KPIの達成度と今後の県政への展開は、何らかの形でリンクする視点も重要である。
- ・子どもたち向けのプログラムや教育との関係性も、フィールドパビリオンの活動の延長である。

委員等

- ・市町との連携も重要なので、市町にも伝わるようなメッセージ性も取り入れてはどうか。

委員等

- ・KPIの設定は動かしてはいけないので、当初設定した数値へのABCD評価を行えばよい。
- ・万博のレガシーとは何かが不十分。万博の取組の中で気がついたことや生まれたものを今後継続していく「SDGs+ビヨンド」の考え方大事。単に現状の枠の中での改善ではなく、万博で生まれた新しい動きを大きく広げていくため、レガシーに関する考え方を記載するのが望ましい。
- ・推進体制の項目では、推進体制を築き上げたことによる効果をもう少し記載したほうがよい。

委員等

- ・これからのフィールドパビリオンをどうしていくかを示した上で、その方向性に沿った体制づくりが大切である。

- ・今回の取組で得られた課題の改善とともに、万博で生まれた新しい動きを発展させていくことも重要である。
- ・今回の検証では、例えば KPI など、現時点での評価として出されているが、今後レガシーとして継承していくものは、短期的な成果からくるものだけでなく、中長期的な成果から生まれるものもある。
- ・フィールドパビリオンをはじめ、こういった中長期的な視点も重要である。

委員等

- ・今後の県としての方向性については、様々な意見があると思うが一つ意見を申し上げる。
- ・SDGs の 17 の目標には、歴史・文化・アートという分野がない。フィールドパビリオンのテーマも同様である。ウェルビーイングなど、新たな流行にもセンシティブに反応していくことも重要である。

■第5回全県推進協議会について

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

- ・淡路島のネットワーク化はいい事例であると感じる一方で、他の地域にはこのようなネットワーク化の事例がまだ少ない。淡路島の場合は、地域で引っ張っていく人がたまたま出てきてくれたが、何故同じように播磨や但馬などでは生まれないのかの分析も必要。
- ・グランドフィナーレでそういった芽が出るようなきっかけとなればよい。

委員等

- ・グランドフィナーレの場で、万博関連やフィールドパビリオンの展示などをすれば、にぎやかになるのではと思う。

以上